様式第３号(第１２条関係)

会　　議　　録

会　議　の　名　称	第１回吉川市産業振興会議
開　催　日　時	令和７年６月２５日(水)　午後３時００分から 午後４時３０分まで
開　催　場　所	吉川市役所２０４会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興会議委員】 近藤 旭、中村　新一、飯箸　幸弘、西山　亜弥、妹尾　建二、 附田 健志、伊藤　健、塩入　英明、大西　哲平、道垣内　壮史、 赤出川　哲宏、小林　千重（産業振興部長）
欠席委員(者)氏名	川俣　雅代、河野　一晃
担当課職員職氏名	産業振興部 商工課　課長　染谷　憲市 商工課　課長補佐兼商工観光係長　田口　裕章 消費労政係長　宮本　映
会議次第と会議の公開又は非公開の別	１．開会 ２．委員委嘱 ３．あいさつ ４．議事 今後に向けた事業展開について (1)（仮称）企業ガイドブック作成について (2) 産業フェアについて (3) 就職説明会について (4) 高校生職場見学バスツアー等について ５．その他 ６．閉会［すべて公開］
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	―
傍　聴　者　の　数	１人
会議資料の名称	１．次第 ２．資料１：(仮称) 企業ガイドブック作成について ３．資料２：産業フェアについて ４．資料３：就職説明会について ５．資料４：高校生職場見学バスツアー等について ６．委員名簿 ７．傍聴要領
会議録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ☑録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	中村委員、赤出川委員

その他の必要事項	なし
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	**１．開会** **２．委員委嘱** （市長より大西委員に委嘱） **３．あいさつ**
市　長	先日、東埼玉テクノポリス協同組合青年部主催のソフトボール大会に参加し、様々な人たちと交流できた。そうした交流を通じて今後さらに連携を深めたい。また、市では文芸活動の普及向上を目指した「文藝よしかわ」を刊行しており、小説・川柳・挿絵など６部門の作品を募集し、過去最高の１１４１点応募があった。応募者名を伏せて選考し、川柳部門で飯箸委員の作品が、最優秀賞と市長賞をダブル受賞した。
会　長	前回会議から半年経過しているが、その間に「東武よみうり」に吉川市に関する記事が多く掲載されているのを目にした。人口比率で言えばもっと他市の話題があってもいいと思うが、市長をはじめ職員の発信力の賜物だと関心している。 本日は、実施予定の事業について、建設的な議論ができればと思う。
会　長	**４．議事** 会議録署名員として、中村委員、赤出川委員を指名。 ≪両名了承。≫
会　長	議事に沿って進めていきたいが、先にニュース的なところがあればお話いただきたい。
委　員	今年もレトロ横丁とジャズナイトが開催される。 ９月５日（金）６日（土）の連日で夜のイベントとなり、５日（金）が商工会商業部会主催のレトロ横丁。８０年代の音楽を流しながら、お酒を飲みましょうといったコンセプト。６日（土）が商工会青年部主催のジャズナイト。中学校の演奏、バンドとジャズの演奏を聞きながらお酒を飲みましょうといったイベントで、前売りチケットが3,000円、両日あわせて3,400円分の飲食等ができる予定。今後ＳＮＳ等で情報発信していく。
委　員	昨年初めて吉川市主催でキャンプフェスを旭地区の市民農園で

	開催した。市がキャンプ関係者と連携しながら開催し、約1,600名の来場があり、市長にもライブに出演してもらった。 今年は昨年参加した市民が中心となり、１１月９日（日）に１０時～１８時まで市民農園で開催する。運営に関しては協賛を募る予定で、「吉川キャンプフェス」のインスタグラムのアカウントを作成しているのでフォローをお願いしたい。
市　長	「吉川市みらいステップアップ助成金」を活用してはどうか。助成限度額が５０万円なので、活用に向けて相談いただければと思う。
会　長	９月のジャズナイトなど吉川市ではかなり自助努力で発展している雰囲気があって非常に良い。
事務局	**(1)（仮称）企業ガイドブック作成について** 産業振興条例の基本的方針に記載のある若者、女性、高齢者、障がい者、外国人等の活躍できる場の創出、農商工の事業連携事業者の人材確保のを推進次世代の地域産業担う人材育成産業としたシティプロモーションなどに沿うように進める。 昨年度の検討会議を踏まえ、子供たちが市内の産業を知り興味がわくような内容とし、掲載希望の企業が自ら文章作成する。作成部数は２，０００部、掲載企業数は６０社、所在地マップやイラストページなども盛り混む。掲載企業の募集は、市の広報や、ホームページで募集し、アンケートで掲載希望がある企業には案内をしており、現時点で10社から応募があり、完成は来年２月の予定である。
委　員	掲載希望が多数であった場合、どのように選定するのか。
事務局	多くの企業を掲載していきたいと考えてはいるが、「産業振興条例の基本的方針に沿っているか」などを考慮して、選定していきたい。
委　員	過去に作成された企業ガイドブックは読み進めていくこと自体が非常にハードルが高い内容であった。昨年度の検討会議を経て、小中学生が理解できるようなものとすることで、市内企業を知り、吉川に愛着が湧くようなものが作れるのではないかと思う。
委　員	最終的に掲載企業側が作成した文章内容が法的に問題ないかなどの精査はどのようにするのか。予算の都合もあるとは思うが、専

	門機関のチェックはないのか。
事務局	市の刊行物は職員が精査しており、専門機関のチェックをすることはないので、委託事業者と職員でチェックする。
	⑵ 産業フェアについて
事務局	開催日時は、１１月２３日（日）で１０時から１５時頃、市民交流センターおあしすで開催し、市内事業者の交流、事業者連携による付加価値の創造や、新たなビジネス展開の促進をし、市内経済活動の活性化を図りたい。 また、農・商・工を繋ぐことや、子どもの職業体験イベントの実施により、市内事業者への理解が深まるようにしていきたい。 舞台演目は、テーマを「事業者と市の協働」として、なまずの啓発事業、ふるさと納税、産業フェアについての座談会を実施する。なまずの啓発事業として、塩入委員のコーワプラス㈱の「もみ殻カップ」、伊藤委員の昇栄建設㈱にご登壇いただく予定である。
委　員	前年、「事業承継」で登壇し、事業承継の大切さ、市内企業としてのＰＲができたと感じた。本年度の「事業者と市の協働」というテーマはピントがずれる可能性があり、難しいと考えているが、せっかくの良い機会であることから、ＰＲの仕方は考える必要がある。「もみ殻カップ」が浸透したのは皆様のおかげだと思うし、美南高校の生徒と市内出身の大学生とのストーリー性のある協働という形を若い人たちの意見も踏まえて伝えていければと思う。
部　長	今回の座談会のテーマは、吉川市の産業振興条例の基本理念に産業振興施策を総合的に推進し、市の発展を図るとともに、事業者、勤労者及び市民の幸福実感の向上を目指したまち作りを一緒に実施するもので、近年、この基本理念そのものという素晴らしい事業がある。広く皆さんに知っていただきたい思いがあり、座談会で発信していこうと考えた。素晴らしい事例を聞いて、機運が高まって、広がりがあればと思っている。例えば、なまずの啓発だと市が毎年少しずつナマズのぼりを作っており、生田プリーツに製作を依頼している。これらを自社のクレーンにくくりつけて、天高く舞う圧巻の景色を見てもらいたいという事業者がいて、自分自身で企画して、近くの事業所も巻き込んで、市民の人たちに楽しんでもらうということがあるので、その話もご紹介してもらいたいと思っている。 また、「もみ殻カップ」の取り組みも素晴らしいものである。これは埼玉県主催の全国植樹祭が５月にあり、記念品として当市が用意した。庁内の選考委員会で植樹祭のコンセプトに合っている

	ことと、ＳＤＧｓに繋げるという基本方針があったので、「もみ殻カップ」を植樹祭の記念品にしようと決定した。ただの記念品というよりも、＋αで記念になる仕掛けをしたいということで、認知され有名になってきている「もみ殻カップ」に若い人たちが非常に注目し、関心を寄せており、自分たちも市に協力したいという想いを直接市長に伝えに来た吉川美南高校と市内出身の東京農業大学の学生に「もみ殻カップ」のデザインとパッケージデザインを考えてもらった。これは、市内事業者、若者、市の素晴らしい協働の事例だと思っており、彼らも嬉しかったようで、また次、何か考えようと前向きであり、その事に感動した東武よみうりさんが記事にしてくださった。 　ほかにも協働として、市内の事業者の素晴らしい品物や技術を返礼品として出品し市と返礼品を同時にＰＲできる、ふるさと納税。満田工業さんの革製品、ヘッドスパやリンパマッサージ等予約が取れない女性起業家のモンレーブさんの人気店の体験の返礼品などを座談会を通してＰＲしていただければと考えている。
会　長	吉川美南高校には、内容を話しているのか。広く周知をすることを考えると、「事業承継」であれば興味ある人は来るが、「事業者と市の協働」というテーマであると、人が来るのかなという心配があるので、登壇者に関係する方や、企業にも広く周知するのも良いのではないかと思う。
部　長	実際に東京農業大学の学生と、吉川美南高校の生徒さんも一緒に登壇する予定である。
会　長	吉川美南高校の他に生徒が来た方が広がりが生まれる。また、文化祭などでもご協力いただいているため、学校の方々にもぜひ声を掛けて、周知いただきたい。
事務局	今後、吉川美南高校にも産業フェアについて、お知らせする。
委　員	植樹祭の記念品である「もみ殻カップ」の作成に携わった、学生達には産業フェアをゴールという形で終わるのがいいのでは。
委　員	子どもたちに土木の魅力を伝えていきたいので、これまでとは違う新たな取組みを考えていきたい。
	(3) 就職説明会について
事務局	開催日時は、１０月２９日（水）。参加事業者の募集を開始して

	いる。近隣市町の高校に案内をしており、進路指導担当が来場し、次年度の参考のために会社説明を聞くことも可能。 　会場は、昨年度と同様におあしすの多目的ホールだが、これまでの運営上の反省を踏まえレイアウトの変更などを検討しながら、準備を進めている。なお、昨年度は１７名の雇用があった。
会　長	高校の進路指導の先生は説明会に来られたのか。先生方に来ていただきたい。
事務局	学校により理由は様々あるが、お越しいただけるよう学校への声かけはしていきたい。
委　員	求職者に対してはどのように周知していくのか。
事務局	ハローワーク、高校、広報誌での周知をしていく。
委　員	予算の都合もあるとは思うが、市内に通勤可能なエリアの方々が見られるように就職情報サービスに掲載することはできないのか。就職説明会に来れば複数社と面接ができ、効率的なので、そのようなサービスを活用できれば求職者にとっても良いことだと思う。
事務局	昨年は、約７０名の求職者が参加した。 　就職説明会自体は市とハローワークの共同主催の事業でああり、当市の管轄は越谷ハローワークになるが、草加、春日部にもあるので、横の繋がりで周知している。他市から就職説明会に参加している。
委　員	ハローワークはindeedに情報を提供し、応募が来ている。
市　長	市から就職面接会を開催するという情報をindeedに掲載してもらえるのか。
委　員	市が直接交渉すれば、マイナビなどの就職情報サービスに掲載してもらえると思う。
市　長	事務局からは告知するエリアの話をした。求人サイトへの費用がどのくらい必要となるのか等を含めて検討する。
委　員	例えば、インスタグラムなどのＳＮＳに吉川市からのお知らせ

	として掲載し、市内から一定の距離に住んでいる人に対して、情報発信をしても良いのでは。
委　員	業者を選定すると手間がかかるので、インスタグラムの広告は良い。
市　長	インスタグラムであれば取り組みやすいと思う。
委　員	ある程度の費用を掛けることができれば、広告をインスタグラムで流すことができるので、そういった使い方ができるのではないか。
委　員	弊社の雇用状況でいえば、採用に苦慮している。 採用してもすぐに退職するので、不足を外国籍の派遣の方で補うといった現状なので、ベースアップや、職種によっては日給月給制から月給制に変更をしている。これにより、年間で労務費が上がることにはなるが、状況をみて派遣社員を抑制していく方向のため厳しい状況である。
会　長	給与面での待遇改善は、国が動いてもなかなか難しいことなので、市単体でやっていくことは財政的にかなり厳しいものなのかなと思うが、金融機関の状況は。
委　員	金融機関も同様で人材の確保がしっかりできれば、もっと仕事が取れる。ミスマッチングがあるので退職してしまうが、仕事内容などがイメージできるような紹介ページをＨＰに掲載し、インターンシップ制度を使った職場体験等の取り組みをしている。
市　長	地方の金融機関も厳しい状況であると認識しており、そのような状況で、さらに人口が減るということはかなり厳しい状況に向かっていくと思う。人口をどうにかキープしたいが、市外からも獲得できる時代はそんなに長くは続かないので、吉川市はすでに人口をなるべく減らさない戦略に舵を切っている。 そうした中で、人口減少をどうにか抑えるには、地元の雇用をキープすることがとても大事だと思っており、その辺りは金融機関が生き抜いていくのと同じテーマだと思う。人材を確保したい企業と市は繋がりがあるので就職説明会などを開催すると、それなりの企業数が集まるが、その場に求職者をどうやって集めてくるのかということが難しい。金融機関が合同就職面接会などに協力いただけるとありがたい。そうすれば雇用が生まれ、人口減少が抑

	えることができ、関係各所すべてが幸福になると思う。
委　員	人事部の話では、各大学にアピールに行っている状態のため応募者がいない。
市　長	求職者の情報はどこかから入ってきているのか。
委　員	人材派遣会社とビジネスマッチングを結んでいるので、情報提供されているが、他事業者も同条件なので厳しい。
市　長	金融機関が合同就職説明会の開催周知をしていただき、求職者にアプローチできるとありがたい。
委　員	職業紹介などの免許を取得し実施しているが、ミスマッチは起きている。我々が紹介できるのは経営幹部候補人材だが、顧客からはドライバーなどの働き手がいないという声を聞く。求人のニーズはあっても、市場マーケットも働き手が足りないという状況なので、マッチングさせるのは銀行では難しいのが実態。 経営幹部人材や上場企業に勤務している方々の情報をストックとして持っているが、中小事業者からはドライバーが欲しいと言われ、難しい。店舗で就職説明会をやりますという告知であれば協力できる。
会　長	さきほど外国籍の方の話があったが、市内の団地には多くの外国籍の方が住んでいて、地域内でどのように共生するのかというう課題があると思う。今後日本は外国人労働者なしでは生きていけないと感じるので、外国人実習生に市内企業に目を向けてもらい、働き手として就労することは必要だと思う。産業振興として、企業を周知していくことも課題になる。
市　長	市内には約2,900人の外国籍がおり、そのうち約900人がベトナムの方である。特定技能では協定書を企業が行政に提出し、各企業の外国籍雇用人数を把握している。 現在、市民参加推進課と商工課でその企業にアプローチしており、例えば減災プロジェクトや産業フェアへの参加を周知している。また、外国籍の方々の市のイベントへの参加を促し、市内企業を知ってもらえれば、勤めていない外国籍の方が吉川市には皆無である状況を作れると思うので、これから政策を考えてゆきたいと思う。

委　員	佐賀県の視察の際に、いずれの市町村も人材の流出を問題視しており、その解決策としてはそのエリアでの雇用は市が求人サイトを運営し、企業はお金をほぼかけずに掲載ができ、マイナビやリクナビ等は日本全国で展開しているので、市が求人サイトを運営すれば市内企業のみが掲載され、市内で働きたい人が探しやすい。少額の予算でインスタグラムの広告等で認知度を徐々に上げていき、最終的に口コミで広がることを検討してみたらどうか。
市　長	今後検討する。
会　長	草加市は「すぐーる」という、インターネットアプリの運営を委託し、ニュースやお知らせ等を提供できるソフトがある。
市　長	市や教育委員会の情報提供にＬＩＮＥを使用している。
会　長	小中学校への情報は提供ができるのか。
市　長	小中学校からの情報はホームアンドスクールというアプリで、保護者に連絡がいくシステムになっている。
会　長	草加市では、それが「すぐーる」というもので、学校と教育委員会から情報を提供し、登録した保護者に情報が届く。高校生が「すぐーる」に登録していれば、例えば産業フェアや就職説明会の情報が入ってくる。
委　員	都内では採用をいかに止めて、ＡＩに事務作業を任せることで各企業の利益率が上り、売り上げは下がらない。おそらく２年後は今の人材売り手市場は逆転すると予想し、特に事務作業はほぼＡＩに変わり、大量のリストラがされ失業率が上がるだろうと。そうするとＡＩにできない職種に流れざるを得ないので、今後、好転することが予想される。
会　長	そういった人たちがホワイトカラーに移行することはあっても、ブルーカラーの仕事をすることは難しいと思う。
委　員	ホワイトカラーの仕事がＡＩに取られるので、肉体労働をするしかない方が増えると予想される。弊社では採用を止め、ＡＩに任せている。
会　長	そのように舵を切っていくことも今後は必要だと思う。先ほどインターンシップの話があったが、市のこういった取り組みはあ

	るのか。例えば市内事業者がインターンを募集するときに斡旋や、紹介、補助等をはあるのか。
市　長	市が人材を企業に派遣をするということをしているのかということか。
会　長	派遣まではいかないが、インターンシップなので給料を渡す。そこに対する補助や告知する費用の補助金はあるのか。
事務局	現状、そのような補助金等はない。
会　長	産業のミスマッチ、組織のミスマッチという点では、インターンシップをどう活用するのかは企業側に求められ、告知が必要と感じる。
部　長	産業振興補助金の中には雇用に関するものがあるが、要件に合致するものであるかなど、そのあたりは確認が必要。
会　長	どれだけ広範囲に行政として支援が可能なのかという確認をいただきたい。
委　員	いずれの銀行も入社１年で離職者がとても多い。前向きな資金、融資の話が少なく、想像していた銀行員ライフと違うミスマッチが起きている。前向きな融資戦略的な事業資金としての融資を受けている会社に新卒を研修に出して経営者と話をする機会を設けている銀行もある。
委　員	スーパーマーケットに行員が行ってサービスマナーを学ぶことを始めている
会　長	この会議は市内で頑張っている前向きな事業者さんが集まっている。みなさんの話を聞きに行ってもらうのもいいと思う。
	(4) 高校生職場見学バスツアー等について
事務局	越谷総合技術高校と吉川美南高校で実施し、越谷レイクタウン観光バスの協力をいただく。 越谷総合技術高校は、村川電気工業と大東製作所の２社に決定した。 なお、大東製作所の電気設備工事を村川電気工業が手掛けたこ

	ともあり、各社の理解が深まることが期待される。 現在、吉川美南高校については、年明け１月の実施に向け、学校が選定中である。
会　長	このバスツアーは産業振興会議の中で出された意見から実施が始まったものである。
委　員	良い事業であると思うが現況が変わってきており、高校生が実際の職場に触れるという意味では良いと思うが採用には繋がらない。そうであれば、郷土愛や市内事業者を知ってもらうという観点から小中学生がいいと感じる。
市　長	基本的に就職を希望する生徒が参加する形であるが、採用には繋がらないのか。
委　員	就職を検討していると思うが２０人規模の町工場には就職しない。職業を検討するときの情報にはなるが、おそらく企業側としては採用には繋がらない。高校新卒者は職業の選択肢が広く、５年前と全然違うので、もっと前向きに市内事業者を知ってもらう観点では高校生だと大人になりすぎている。 情操教育的なところで市内事業者を市がアピールした方が大人になってから効いてくるような気がする。
委　員	娘が専門学校１年生であるが、取得したい資格があるので専門学校を選んだが、通っていたのは商業科の高校だったので、一般受験はかなり厳しい学科である。 一般的に高卒と大卒の給料の額が違う。商業科の学校でも大学を選択しているので、就職を選ぶ生徒が本当に少ないという印象が強い。私の時代の商業学校は、卒業後就職するイメージがあった。また、下の娘が高校１年生で、舞台芸術を専攻しているが、大学の指定校推薦や、総合化されている等、様々な選択肢がある。先生の話で印象的だったのが、舞台芸術科を卒業しても、ダンサーや俳優になるわけでもなくて裏方の制作会社の音響や照明とかブルーカラー的な仕事を希望する生徒がいる。以前は卒業して職人気質の世界に入り、技術を学んでいく方法が結構あったが、今は大卒でもその職業に就く方もおり、その子たちと肩を並べて仕事をしていかなければいけないので、大学は出ていた方が良いとすすめられた。やはり職業に対する見方が、高校生の方向自体変化してきていると感じる。
市　長	雇用に結びつかないという意見があった。今年度の職場見学バ

	スツアー後に高等学校と受け入れ企業からヒアリングをして、今後のバスツアーがどうあるべきか検討する。企業の方々に大事な１日をいただいても意味がなければ申し訳ないので、このまま続けるのか、小中学生を対象とした職業体験３daysみたいな形にするのかを含めて考えたい。
会　長	次に、あかね祭について事務局から説明をお願いする。
事務局	美南高校の文化祭は９月５日（金）、６日（土）の二日間開催する。一般開放日となる６日（土）が出展日であり、２つの教室が利用可能である。
会　長	産業振興会議委員の企業が出展していただけると助かる。今年は２教室使用できるので、８社、前回一つの教室４ブースで、そのうち１ブースを市が使用した。ぜひ、検討をお願いする。
委　員	コーワプラスのように高校生とコラボレーションし、市内企業に親近感を持ってもらう等、大変良い取り組みである。
委　員	ちなみにJazzNightは、例年朝からやっているが、今年は暑さの関係からレトロ横丁は夕方から、JazzNightは午後３時からの予定なので、吉川美南高校のあかね祭と時間は重ならない。
委　員	去年のあかね祭には、市長が来てくださり盛り上がった。また、子供たちにとってもいい経験だったと思う。企業は社会の公器だから、地元の学生にそのような場を提供するという趣旨であれば大切であるが、採用には繋がらない。
市　長	各々を見直した方が良いため検討していく。
会　長	出展者の周知等については事務局にお願いする。 その他として、前回会議で話のあったシニア二丁目の進捗状況についてお願いする。
	５．その他
委　員	シニア２丁目が、この会議に出席されて、本人たちの労働力を生かしてくれないかという、彼らにとっても生きがいが欲しい感じであった。一方で、昔のように働けない、新しいことは苦手、リスクを取りたくないという話もあり、それは厳しいんじゃないのかと苦言を呈する感じになった。厳しいことを言うだけだと前に進

	まないので、相談を受けた結果、行動力がある方々なので、合同会社を作ることになった。出資者が４人集まっており、８月に会社を設立し、9月から活動を開始する予定で進んでいる。内容はポスティングの事業。健康のために散歩をしているので、手ぶらで散歩するよりポスティングした方が良いという話から、集客に困っている新たにできた店舗等から広告をもらう。インターネットサービス等の広告を請け負うなど、事業として面白いので、そこを皮切りに展開することになっている。これが成功事例として、結果が出れば市内で初のシニアが活躍できる環境を作れたいうことで、外部からも注目を浴びるだろうし、様々なことに展開できると思う。
市　長	広報よしかわの配布は課題のひとつになっている。今後、情報交換できると良い。
	６．閉会
副会長	前回の会議でシニア二丁目と対談したが、進捗状況を聞いて素晴らしいと思った。そのような事例が会議の中から生まれ、市政に対してプラスになることを作っていければと思う。今後とも皆様にはご協力をお願いしたい。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和７年８月２６日

署名委員　中村　新一（自署）　　署名委員　赤出川　哲宏（自署）